不登校やひきこもりの初期介入支援と自立支援サポート事業研修会

訪問看護ステーション かえるのほっぺ　井手浩史

【研修内容】

・「斜めからのまなざし」～訪問看護で支える、10 代の心と暮らし～

講師：峯上良平 氏

・「安心できるつながりが、はじまりになる」
～田邊友也さんと「いしずえ」のまなざし～

講師：田邊友也 氏

・「安心が生まれる場所づくり」～「家族支援」からはじまる回復の一歩～

講師：山根俊恵 氏

【はじめに】

近年、訪問看護の現場では、不登校やひきこもりの方々への対応がますます求められています。本研修では、そうした支援のあり方をあらためて見直し、より実践的な視点を深めるために参加いたしました。

【研修内容と学び】

「斜めからのまなざし」

訪問するスタッフが、利用者様にとって「興味を持てる存在」であることの重要性を学ぶことができ距離の取り方や、過度に正面から関わろうとしすぎない姿勢が、安心感を生むこともあると知りました。
また、ひきこもりの背景には性格や怠けといった個人の問題ではなく、発達特性や環境因子が大きく影響していることを再認識しました。訪問看護ができることは信頼関係の構築と生活リズムを整えること、特性理解など日々の関わりの中で、その視点を忘れずにスモールステップで伴走していこうと感じました。

「安心できるつながりが、はじまりになる」

トラウマ・インフォームド・ケア（TIC）の視点から、トラウマ体験を持つ方に対しては些細な出来事でも再トラウマ化するリスクがあるため、安心できる環境づくりと接し方が何よりも重要であることを学びました。
自分自身も、無意識のうちに「支配的な関わり方」や「決めつけ」に陥っていたかもしれないと振り返る機会になりました。
今後は、訪問時に「ご本人が選べること」「ご本人が決められること」を丁寧

に伝え、コントロール感の回復につながる支援を意識していきたいと思います。また、小さなサインに気づけるよう、継続的な関係づくりを大切にしていきます。

「安心が生まれる場所づくり」
訪問看護では、ご本人だけでなく、そのご家族の不安や疲労を感じる場面も多くあります。研修を通じて、「家族が安心して話せる場」「関係性そのものが支援になる」という考えに深く共感しました。
家族の気持ちや負担を受け止めることが、支援の第一歩であることをあらためて実感しました。今後は、まず“話を聴く姿勢”を自分自身だけでなく、ステーション内でも見直し、チームとして家族支援に取り組んでいきたいと思います。

【まとめ】
今回の研修を通じて、不登校やひきこもり、発達障害支援の奥深さを再認識するとともに、支援者としての姿勢や関係づくりの重要性を再確認しました。
今後も学びを継続し、利用者様やご家族にとって「安心が生まれる関係と場所」を提供できるよう努めていきます。